

自転車社会学の創出に向けて

大東文化大学 社会学部 社会学研究所
自転車とツーリズム・まちづくり研究会
野嶋剛・疋田智・塚本正文・阿部英之助・鶴田佳史・飯塚裕介

大東文化大学 自転車とツーリズム・まちづくり研究会について

大東文化大学社会学部・社会学研究所は研究チームとして教員有志と外部有識者による「自転車とツーリズム・まちづくり研究会」を2022年に開設しました。

今、私たちの社会にとって、東日本大震災そして新型コロナウイルスの流行という苦しい局面を経て、自転車はぐっと身近で大切な存在になりました。省エネルギー、脱炭素、健康、運動、防災、観光、都市計画、SGDsなど多くの現代社会の課題の解決に向けて、自転車の活用によって大きなブレークスルーを実現できる可能性が見えています。

私たち社会学部は、さまざまな社会問題の解決に向けたアプローチを考

えるところであり、ここに挙げたような諸課題に取り組む専門家がそろっています。たまたまの素晴らしい巡り合わせで、社会学部には複数のサイクリストがいました。そこで、各メンバーの知見を結集しながら、「自転車社会学」を社会学における横断的な研究テーマとして育てることができないかと考えました。

社会学部の専任教員は20数名いるのですが、そのうちの10人近くがメンバーに加わりました。研究会としてまず最初に行ったことはオリジナルウェアをWAVE ONEで制作したことです。自転車研究はまず自転車に乗ることから始まるからです。

その後、大学のある板橋区を流れ

る荒川の河川敷を走る「アラサイ」、東京都内でのシェアサイクル、食と観光をテーマにしたグルメライド、三浦半島の「ミウライチ」、南房総・東京湾ライドなど、研究会メンバーでさまざまな実走調査を繰り返しています。

もちろん、学術的なフィードバックも進めています。2023年には、研究会のキックオフイベントのシンポジウム「日常と非日常の自転車活用」を開催しました。2024年にも電動自転車に関する研究セミナーを開催しました。それぞれが論文や研究発表を次第に増やし、活発な活動を続けています。



製作したオリジナルウェアを着たメンバーの集合写真



荒川河川敷散策時の様子



三浦半島の走行調査時の様子

野嶋剛

社会学部教授、本研究会幹事
担当：台湾の自転車利用環境
自転車歴10年、愛車：GIANT・TCR

私の研究テーマである台湾の自転車利用環境には学ぶべき点が2つあります。サイクルツーリズムとシェアサイクルです。およそ1000キロの環島（台湾一周）を台湾の人々にとって「一生に一回はトライしてみたいイベント」と位置付け、環島用自転車道などのインフラ整備も含めて国を挙げて取り組み、社会性の高い観光商品に育てました。シェアサイクルYouBikeは主要都市を網羅し、年間延べ利用回数が一億回を突破するなど市民の足として定着。黄色い車体が都市景観を変えつつあり、台湾はアジアでシェアサイクルの最先端を走っています。



台湾環島を楽しむ（本人）



台湾のYouBike（台北市）

電動モビリティの未来。

2023年の法改正以降、主に都市圏で自転車からの風景が変わり、それぞれにメリットとデメリットもさることながら、増えたのは「電動〇〇」のカテゴリーです。便利になったと思われる方もいる一方「危ないな」と思われた方も多いのではないでしょうか。



従来の「電動アシスト自転車」とは異なる特徴があります。

違法・電ジャラス自転車
別名「違法モベッド」。ペダル付の電動原付バイクで、右手にスロットルが付いています。免許、ナンバーがないと違法。

違法・電ジャラス自転車
基本「違法モベッド」と同じですがスロットルがありません。ペダルがスイッチになっていて、違法です。取り締まりが難しい。

合法・電ジャラス自転車
令和5年に定められた新規格「物入れ等付小型電動自転車」。無免許、歩道、ノーヘル等、皆、合法（罰則なし）です。



疋田智

塚本正文

大東文化大学 社会学部教授・専任研究員
担当：サイクルツーリズムと地方財政
自転車歴4年、ビンディングペダル歴1年

地方自治体の自転車による観光推進政策などを調査しています。

サイクルツーリズムを推進するため、補助金による支援を行う自治体では、地域内にスタンドなど環境の整備や、サイクルバスなどサイクリストを呼び込む体制が充実してきました。インバウンド客を含めた新たな旅行需要の創出の様子取材しています。

財政学を専門としていることから、私の担当としてこれら各地のサイクルツーリズム政策の受益者と負担者の関係性に着目した研究を進めています。



行政へヒアリング後に試走（2023年）



全国の観光地が増えるサイクルラック

阿部英之助

大東文化大学社会学部 准教授、博士（社会学）
担当：サイクルツーリズムと地域振興
調査地：岩手県遠野市、山形県鶴岡市など

岩手県遠野市を事例に、サイクル・ツーリズムが農村地域の活性化にどのようにつながるかを調査しています。

「遠野里山ポップサイクリング」は、（走行約13km）参加者がガイドとともにホップ畑が広がる「ポップの里遠野」の里山をゆったりと走り、農家民泊に立ち寄り、地元食材を使ったランチとクラフトビールを楽しみます。

「チャリプラ」を拠点に、「人と会う」立ち寄りポイントを整備し、地域の人々との新たな交流の場づくりと地域資源の魅力発信が進められています。



ポップサイクリングの様子



ガイド先導で里山を走行

飯塚裕介

大東文化大学社会学部 准教授・博士（工学）
担当：まちづくりと自転車活用
自転車歴20年、愛車はScott Addict・Focus Cayo

都市計画・建築計画の視点から、自転車などのマイクロモビリティをまちづくりに活かす地域デザインについて研究しています。

日本では、自転車を車いすやベビーカーの代わりに使うなど、「徒歩の延長」として身近に利用されています。しかし、こうした扱いは、自転車の交通機能が十分に発揮されない要因となっています。安全で快適な自転車走行空間を実現するためには、道路や交通ルールの整備に加え、電動モビリティなど多様な選択肢を考慮し、人々の移手段を再配置するまちづくりの発想が求められています。



東京湾一周ライド（2024年4月）



UR都市機構、トヨタモビリティ東京、板橋区と連携して、高齢化が進む高齢者向けでモビリティ実証実験を実施しました（2025年9月）

自転車とサステナビリティ

自転車のLCA、他の交通機関との環境負荷の比較、交通環境の整備、健康、観光振興、サーキュラー・エコノミー、シェアリング・エコノミーについて主に研究されている。まちづくりとの関係からは、タクティカル・アーバンイズムの一要素として自転車について言及されている。また、これまでも研究されているが、自転車のランドスケープ、自転車のサウンドスケープもおもしろいかもしれない。自転車のサステナビリティではSDGsとの関連からも述べられることも日本では多い。以下は、SDGsのインデックスで自転車と関連するものである。SDGsの達成に自転車が寄与しているかは精査する必要がある。

- 3.6.1 道路交通事故による死亡率
- 9.1.2 旅客と貨物量（交通手段別）
- 9.4.1 付加価値の単位当たりのCO₂排出量
- 11.2.1 公共交通機関へ容易にアクセスできる人口の割合（性別、年齢、障害者別）
- 13.2.2 年間温室効果ガス総排出量

パーク・アンド・（自転車）ライド
わかやまサイクリストレインプラス
和歌山線（和歌山駅～五条）

予約制のため利用者は0名、観光での利用のためか、通勤・通学で使用する通常利用とは異なる仕掛けが必要か。



つるたよしふみ

鶴田佳史

大東文化大学社会学部 教授